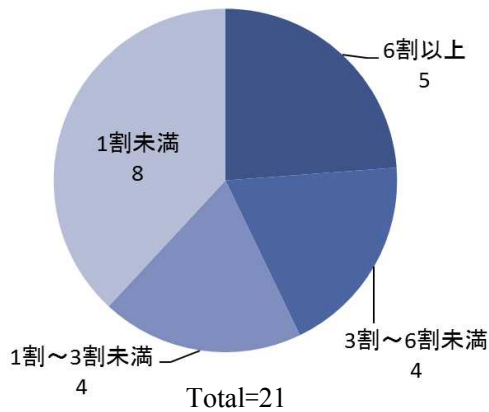


3. 平成22年度就労会計に農業生産が占める割合別事業所数

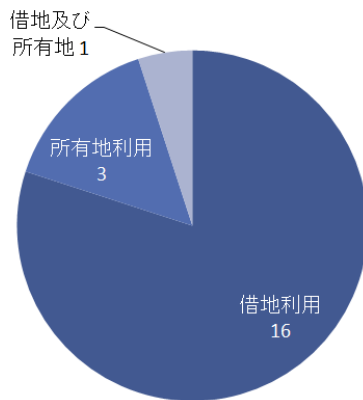


4. 事業所が生産する農業生産物の例

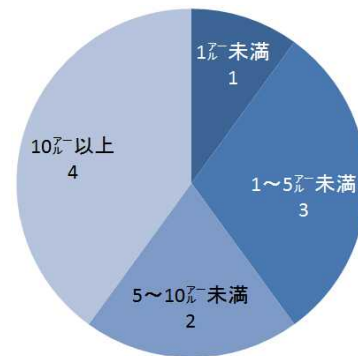
- ほうれん草、水菜等(水耕栽培)
 - 椎茸 (菌床、原木)
 - 野菜苗、花き苗のポット
 - ラッキョウ
 - 白ネギ
 - 葉物野菜
 - キュウリ
 - トマト
- など

5. 農業生産用地の状況

用地の確保状況について回答のあった20事業所の借地及び所有地の割合



借地面積について回答のあった10事業所の利用面積分布

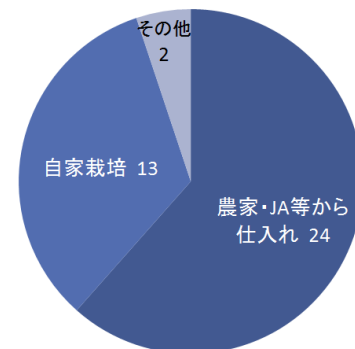


6. 農産加工品の例

- こんにやく
 - ジャム
 - ケチャップ
 - 梨、柿などのピューレ
 - 味噌
 - ラッキョウの酢漬け
 - 漬け物
 - 板わかめ (水産)
 - 干しいも
- など

7. 農産加工品の原材料調達

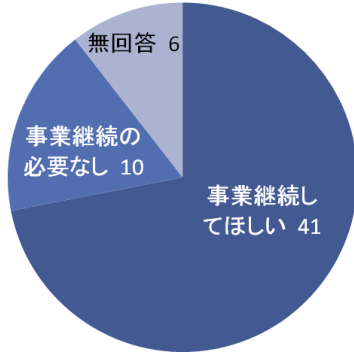
事業所から回答のあった39品目の原材料の調達方法



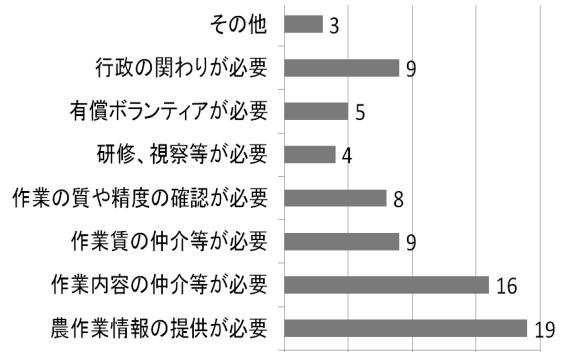
※自家栽培及び農家等から仕入れの両方を利用している品目は自家栽培としてカウント

8. 平成24年度以降の農福連携モデル事業による支援の必要性

(1) 平成24年度以降の事業継続にかかる事業所の意向



(2) 「事業継続してほしい」と回答のあった事業所の問題意識 ※複数回答可能として調査



(3) 「事業継続が必要」と回答のあった事業所の主な意見

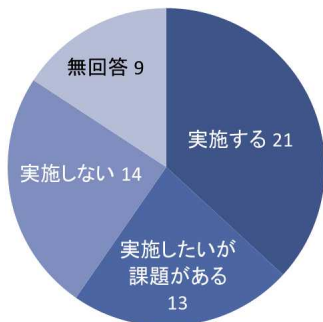
- 作業受託交渉について事業所の事情が厳しく、行政の支援がまだまだ必要だと思う。
- 作業の品質、生産性向上のための研修等が必要。
- 直接言いにくい事柄について仲介者の働きは必要。
- 委託先の開拓が難しい。事業所だけでは情報収集が困難なので、今後も継続してほしい。
- 農家から専門的な指導をうけて、作業所での仕事につなげていきたい。
- まだまだ「農福連携」という事業の内容などを知らない農家が多いと感じる。
- 利用者に新しい作業が体験させる事ができ、作業が増えるので収入もその分増える。
- 事業がなければ農家とのコミュニケーションが取れない。

(4) 「事業継続の必要なし」と回答のあった事業所の主な意見

- 農業を収入目的としてとらえるのではなく、セラピー的な目的を持って事業にあたっている。
- 2年間で充分事業の効果はあったと思う。
- 積極的に取り組むことは今後も難しいのではないかと考える。
- 限られた事業所、農家となっている。
- 作業内容が事業所の希望にあっていることが少ない。

9. 平成24年度以降にモデル事業が継続されない場合の農作業受託の継続性

(1) 事業所の意向割合



(2) 「実施する」と回答した事業所の主な意見

- 収益性があり工賃向上につながる。
- 2年間のモデル事業を通して出会った農家等と直接交渉。
- 農業経営者と良い信頼関係が築けた。
- 農家から継続の内諾を得ている。
- 利用者の工賃アップにつなげたい。
- 利用者も職員もみんなのできる仕事だから。

(3) 「実施したいが課題がある」と回答のあった事業所の主な意見

- 年間を通しての作業量の確保ができない。
- 農地での休憩所が設置できない。
- 地元以外の農作業に関する情報が入手出来ない。
- 農家との作業賃についての調整が困難。
- 作業に同行できる職員が確保できない。
- 天候や農家の都合でコンスタントな就労機会が得られない。
- 作業所が希望している作業がない。

(4) 「実施しない」と回答のあった事業所の主な意見

- 利用者の適性が農作業にあわない。
- 不規則な日程を強いられるため。
- 事業所から作業現場までの距離があり、ガソリン代の捻出などが困難。
- 現在の自主生産で手一杯だから。(同様の回答多数)
- 他の作業との兼ね合い、職員数、現利用者の関心等を考慮。
- 人員不足。

10. 平成24年度以降にモデル事業が継続されない場合の、必要な条件整備についての事業所の主な意見

- 農家等の受け入れ側の理解。
- 農作業情報の提供。
- 年間通して安定した作業。
- 情報公開、情報発信。
- マッチング機能が必要。(同様の回答多数)
- 農福連携に限った事ではないが、好事例があれば受託検討しやすい。
- 委託先農家との信頼関係の強化。
- 年間を通じた作業予定。(作業内容、時期等)
- 人手不足の解消。
- 利用者の増。

11. 現在のモデル事業に不足している事項についての事業所の主な意見

- 作業内容が限られているように思う。
- 作業所のやる気。
- 情報発信の多様化。
- 将来に向けた実績やビジョンが不明確。
- 年間を通じた受託契約についての情報不足。
- 信頼関係の不足。
- スポット的な作業が多いため、通年で行える作業の組み合わせ。
- 利用者の障害の特性に合う作業が、なかなか見つからない。
- トイレが必ずあった方がよい。
- 有償ボランティアの支援。

事例紹介の使い方

モデル事業による受委託の事例の利用について

本事例集の各事例紹介では、モデル事業により実際に福祉施設・事業所が受託した作業について紹介しています。今後、農作業等の受委託を検討・実施される際の参考としてください。

なお、あくまでこれまでのモデル事業での作業料金、作業の様子などを反映させたものですので、この限りでは無いことをご了承ください。

掲載事例

1	二十世紀梨の人工交配作業	21
2	二十世紀梨の小袋かけ作業	23
3	ラッキョウの根切り作業	25
4	水田畦の集草・運搬作業	27
5	ニンニクの盤茎切り作業	29
6	ブルーベリーの完熟果実の摘果作業	31
7	ラッキョウ種球の選別作業	33
8	ラッキョウの植付け作業	35
9	白ネギ育苗用トレーの洗浄作業	37
10	秋冬ネギ畑の除草作業	39
11	落花生の収穫作業	41
12	マコモタケの出荷前調整作業	43
13	山行苗木ほ場の除草作業（林業）	45
14	アゴ(トビウオ)の下処理作業（水産業）	47
15	定置網漁の荷揚作業と朝市での販売（水産業）	49

タイトル

作業事例の概要

作業内容や時間など、作業事例の様子を解説しています。

アンケート抜粋

受委託作業が終了後に、農業生産者のかたと施設・事業所の担当者のかたに記載いただいたアンケートの抜粋等を意識した内容を掲載しています。

作業における配慮・指導方法のポイント

受委託作業の前に、各プロジェクトチームが作成した「農作業カルテ」に記載された注意事項や、受委託作業における教訓や気づきについて掲載しています。

プロジェクトチームでの工夫等

受委託にいたるまでの工夫や、作業実施後に各プロジェクトチームで行った検証結果について掲載しています。

定置網漁の荷揚げ作業と朝市での販売

モデル事業による水産物の実証事業


岩美町漁業にある飛越漁業支所では、網漁獲したばかりの新鮮な海の幸を地元のかたに提供することを目的に、10月～8月上旬にかけて毎週土曜日限定の「朝市」を、平成23年から開始した。

地元の出産事業所では、この朝市のために行われる定置網漁でとれた魚の荷揚げ作業と、朝市での販売作業を作業補助を要する業務を委託。

定置網漁は様々な種類の魚が獲れるが、荷揚げ作業ではその仕分けをし、箱づつを行う。障がい者が準備への出入り、計量・選別・梱包などの作業を実施。

荷揚げ作業後には、朝市の会場に移動し、設置、販売、後片付けなどを行った。

施設職員2人が同行し、障がい者3人で7日実施。



荷揚げは分業し流れ作業で行う。

主な工程

魚箱への搬入れ

計量・包装

選別・梱包

コンテナの穴を順番に入れながらおく。


朝市で販売するために、箱もって朝市の作業をしていく。

アジやアブラハリの魚を種類、大きさに別に分けていく。

アンケート抜粋

水産者「魚の選別がたんと上手になった。接客でも笑顔が出るように新しい雰囲気を作ってくれた。来年もいっしょにやりたい。」

施設「地元での取組でもあり協力して地元を盛り上げることができてうれし。利用者の意欲もあり、社会参加ができるのは非常に嬉しい。」



朝市は、地元の人や観光客で賑わう。

作業における配慮、指導方法のポイント


- マスク、手袋の着用など、衛生面を徹底すること。
- 悪々の役割や仕事の順番に気を配り、作業人員の割り振りを行うこと。
- 接客では、明るく声かけや笑顔に心がける。
- 注文の聞き取り、梱包、代金の受け取りなどをスムーズに行う。

プロジェクトチームでの工夫

- 全体での作業内容が比較的複雑で工程が多かったため、事前に荷揚げ作業を模し、利用者や作業員などの訓練を行った。
- 委託契約締結前に実際に作業を体験するための作業実習を実施した。

プロジェクトチームでの検証結果

- 障がいに対する理解等があったからこで、協力関係が築けた。
- 半年間以降も継続することで、互いの利益につなげ、持続的な取組となることを期待したい。



地元の人や観光客で賑わう。

作業分析

料金目安	1万円以下	2万円以下	3万円以下	4万円以下	5万円以下	6万円以下	7万円以下	8万円以下	9万円以下	10万円以下	11万円以下	12万円以上
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
難易度	難しい	普通	難しい	地域性	中部	中部	障がい者	障がい者	障がい者	障がい者	障がい者	障がい者

主な工程

作業手順等について、掲載しています。

作業分析

●ユニット1日あたり料金目安

紹介事例と同種の受託作業を1ユニット（3～6人程度）が1日作業して得られた作業料金の分布です。

●作業時期

紹介事例の作業が受委託される、概ねの時期を表示しています。

●難易度

事前の実践的な研修や作業者のスキルを要するレベルを表示しています。

●地域性

紹介事例と同種の作業を要する鳥取県内地域を東部・中部・西部の3地域に分けて表示しています。

●障がいの種別

紹介事例と同種の受託作業を行った障がいのある人の障がいの種別を掲載しています。

なお、個々の障がい者の障がい特性にもよりますが、ほぼ全ての事例について、障がいの種別によらず作業可能と考えています。

二十世紀梨の人工交配作業

モデル事業による農業の受委託事例

梨はほとんどの品種が自分の花粉で受精できないため、人工的な交配により結実させる。

作業は、比較的天気の良い日に、他品種から採取された花粉を筆にとり、満開になった花のめしべにつける。

開花状況と作業前後の天候が作業の成果に大きく影響する。たとえば、作業後に降雨があれば作業をやり直すこともある。そうした作業の性格上、適期と判断されればすぐに作業をする必要がある。

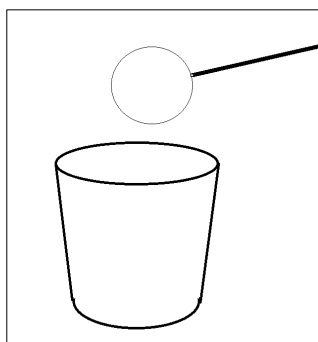
このシーズンは開花時期が遅れ、交配作業日の調整が大変だったとのこと。

この作業は、県東部地域の果樹生産農家からの受託作業。施設職員3人が同行し、障がい者5人で実施。32本の梨の交配作業を一日でおこなった。



集中力と根気のいる作業。

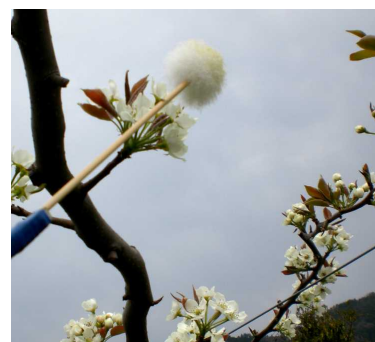
■ 主な工程



ボンテンと呼ばれる受粉専用の筆に花粉を十分着け、容器の縁でたたいて余分な花粉を落とす。



雌しべの先端をボンテンで擦るようにして受粉させる。



一度、ボンテンにとった花粉で30花程度連続して枝を伝うように受粉させ、再びボンテンに花粉をとる。

アンケート抜粋

農業者「作業漏れもなく、丁寧な作業だった。
農作業になれるためには、様々な支援が必要だと思う。」

施設「初めての作業だったので参加人数を多めにし、利用者の緊張感の軽減を図った。」



二十世紀梨の花は鳥取県の県花。

作業における配慮、指導方法のポイント

- 枝単位で作業し、受粉作業の漏れがないようにする。
- めしべに筆をこするようにして、確実に受粉するよう心がける。
- 足場が不安定なので、転倒しないよう気をつけるよう指導する必要がある。
- 花粉を扱うのでマスク等を着用し、作業後は手洗い、うがいを行う。

プロジェクトチーム、マッチングセンターでの工夫

- 現場での作業支援を実施。

プロジェクトチームでの検討結果、今後への所感

- 作業受託する際は、農業者と連絡を密にとり、交配適期の把握に努め、作業日程の調整を行うことが必要。
- 作業自体は、習熟すれば比較的軽易な作業であるが、作業期間が短期であるため、実践のみによる利用者の習熟が図りづらい。

作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円 台	2千円 台	3千円 台	4千円 台	5千円 台	6千円 台	7千円 台	8千円 台	9千円 台	1万円 以上		
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
難易度	易しい	普通	難しい	地域性			西部	中部	東部	障がい の種類		
									身体	知的	精神	その他

二十世紀梨の小袋かけ作業

モデル事業による農業の受委託事例

二十世紀梨は、病虫害を防いだり、果皮をきれいに仕上げることを目的に、果実に袋をかけて栽培する。成長にあわせ、小袋かけと大袋かけの2回の袋かけをするが、小袋かけは1回目の作業で、半透明のパラフィン紙で出来た袋を幼果にかける。

この作業は、県西部地域の梨生産農家からの受託作業。作業は、施設職員1人が同行し、障がい者3人で3日間実施。5,100枚の小袋かけをした。

作業に参加した障がい者のモチベーションは高く、作業後の感想も「よかつた」とのこと。今回が初めての作業で「袋の枚数管理が難しかった。」といった反省もあった。



丁度手が届く高さに誘引された枝になる実には袋をかけていく。上を向いての作業が続くので、首が疲れやすい。

大袋かけ作業は、同様の体勢で作業をするが、留め金で袋の口を止めるため小袋かけより作業の難易度が高い。

主な工程

幼果の確認



小さな梨の実を探す。

袋をかける



軸が折れてしまわないように注意しながら袋をかける。

封をする



袋は斜めにし、袋の口を端から端までぴっちり封をする。

■ アンケート抜粋

農業者 「初めてなので、何度も手順・注意事項を説明・指導しなければならなかったが、長期的に取り組んでもらいたいと思っている。」

施設 「どのような服装や帽子、履物などが適しているかを事前に把握しておくべきだった。」

■ 作業における配慮、指導方法のポイント

- 袋のかけ忘れや、幼果の見落としがないよう、チェックすること。
- 袋かけの作業ができて、実を探すことができず長時間手を動かさない施設利用者がいたので、作業中の目配りが必要。

■ プロジェクトチーム、マッチングセンターでの工夫

- 施設利用者を対象とした事前の研修として、ピンポン球を幼果に見立てて袋かけ作業の練習をした。
- 他の圏域と合同で、県園芸試験場のハウス栽培梨園を会場に、実際に小袋かけの作業体験を行った。

■ プロジェクトチームでの検討結果、今後への所感

- 2年間程度は同じかたに作業をしてもらい、様子を見ながら慣れてもらう必要がある。
- 利用者の障がい特性について 事前に農業者への情報提供が必要だった。

■ 作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円 台	2千円 台	3千円 台	4千円 台	5千円 台	6千円 台	7千円 台	8千円 台	9千円 台	1万円 以上		
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
難易度	易しい	普通	難しい	地域性			西部	中部	東部	障がいの種類		
									身体	知的	精神	その他

ラッキョウの根切り作業

モデル事業による農業の受委託事例

ラッキョウは鳥取県の特産品で、鳥取市福部町では約120ヘクタールで栽培されている。耕耘や堀取りなど機械化された作業もあるが、植付け、除草、出荷調整には人手が必要。

特に、5月下旬から6月中旬にかけて収穫されたラッキョウは「根付き」や「洗い」などの出荷規格に合わせた出荷前の調整作業が必要で、時期の限られた作業も集中するためほとんどの農家がパートや作業委託で人手を確保している。

ラッキョウの根切り作業は、精神障がい者などの施設利用者6人で1日5時間の作業を計18日間実施。「根付き」規格という出荷規格に合った仕上がりとなるよう余分な根と葉を切り落とす作業を行った。



作業風景

作業のモチベーションを持続させるため、一つのコンテナに向かい合うよう作業台を配置し、作業後のラッキョウがコンテナにたまりやすくした。

根切りの作業台

包丁がしっかりと固定されている。作業は手袋を着用して行った。



■ 主な工程

1. コンテナからラッキョウを取り出し、両手で持つ。
2. 台に固定された包丁に押し当てて不要な根・葉を切る。
3. 切ったラッキョウは別のコンテナに入れる。



■ アンケート抜粋

農業者 「仕事がとても丁寧で、安心して作業を行ってもらうことが出来た。」

施設 「慣れるまで、根切りの長さ（切り落とす位置）に苦労した。また、作業のモチベーションを持続させるため、作業台の設置方法を工夫した。」

■ 作業における配慮、指導方法のポイント

- 生鮮品なので必ず1日で一連の処理を終える。
- 臭いが強いので換気に注意し、適度な休息時間を確保する。
- 鋭利な刃物を使うので、手袋をするなど怪我の防止に努める。
- 規格に合った切り方や不良品の選別ができるよう技術習得する。

■ プロジェクトチーム、マッチングセンターでの工夫

- 県域内の障害福祉サービス事業所等に呼びかけ、支援員と施設利用者を対象とした、作業体験研修を実施した。

■ プロジェクトチームでの検討結果、今後への所感

- 切る長さなど、求められる出荷時の仕様が、農家、加工場毎に異なるため事前に入念な確認が必要。
- 事業所内で作業するため作業途中で発注元による出来映えの確認が困難。

■ 作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円 台	2千円 台	3千円 台	4千円 台	5千円 台	6千円 台	7千円 台	8千円 台	9千円 台	1万円 以上				
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
難易度	易しい	普通	難しい	地域性			西部	中部	東部	障がいの種類	身体	知的	精神	その他

水田畦の集草・運搬作業

モデル事業による農業の受委託事例

水田の畦の草刈りを農家のかたが刈払機で行い、その後、施設の利用者が草を集めて運搬した。なお、この作業は、田植え後から稲刈りまでの間に3回程度行われる。

作業は、施設職員が1人同行し、障がい者

3人が2日間で実施。熊手などで草を集め、一輪車に乗せて集積した。

夏の暑いなかでの作業だったが、農家のかたの評価もよく、作業も予定どおり完了した。作業時間は1日あたり3時間程度。



作業前後の景観



■ 主な工程

草を集める作業



熊手で畦の草を集める。

運搬作業



農作業用一輪車に草を載せ運搬。

■ アンケート抜粋

農業者 「暑い中、黙々とよくしてくださった。予想以上の作業能率と仕上がりで驚いている。」

施設 「施設の作業時間に併せて作業したため、外気温の高い時間での作業となった。農家さんからねぎらいと感謝の言葉を貰ったのは大変うれしく励みになった。」

■ 作業における配慮、指導方法のポイント

- 夏の暑い時期の作業は、熱中症対策などの気配りや、着替えの準備、休憩場所、作業時間の工夫なども検討する。
- 熊手や農作業用一輪車を使用するので、扱いに注意する。
- 傾斜の急な箇所は落下しないよう注意する。

■ プロジェクトチーム、マッチングセンターでの工夫

- 作業期間中、数回現地確認し、作業の様子などを確認した。

■ プロジェクトチームでの検討結果、今後への所感

- 発注した農家は、障害福祉サービス事業所等への発注は初めてだったため、最初は不安に感じたが、他の農家に話を聞いて活用を決意したとのこと。今後も農家間での、口コミによる広がり期待したい。

■ 作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円 台	2千円 台	3千円 台	4千円 台	5千円 台	6千円 台	7千円 台	8千円 台	9千円 台	1万円 以上				
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
難易度	易しい	普通	普通	難しい										
地域性						西部	中部	東部						
障がい の種類										障がい の種類	身体	知的	精神	その他

ニンニクの盤茎切り作業

モデル事業による農業の受委託事例

ニンニク加工食品を取り扱う食品製造業者と連携している農業参入企業からの受託作業。この企業は、耕作放棄地を利用して特別栽培により糖度の高いニンニクを栽培し、契約先の食品製造業者は熟成・発酵させた「熟成黒にんにく」を商品化している。

作業は、施設内へニンニクを搬入して行われ、収穫されたばかりのニンニクの盤茎部ばんけい(根の付け根部分)を専用の刃物で切り落とし、さらに乾燥後にごみ取りなどの調整が行われた。

障がい者9人と施設職員で約2トンのニンニクを5日間で処理した。1日あたりの作業時間は4～5時間程度。



ナイフを根っこにあてがい、ニンニクを回しながらカットしていく。

必ず、軍手などを着用して作業する。

■ 主な工程

1. ケースから取り出し、専用のナイフで根っこの盤茎部分をカットする。



2. カットしたニンニクと根っこの部分に分けてケースに入れる。

※ニンニクの搬入・搬出は委託農家が行った。



専用のナイフ。右利き用。

■ アンケート抜粋

農業者 「収穫された作物を作業所へ搬入しての作業だった。

ていねいな作業だったので、次もぜひお願いしたい。」

施設 「刃物に抵抗がある人が何名かいた。梅雨時期だったので、屋根があり風通しの良い場所が作業しやすい。」

■ 作業における配慮、指導方法のポイント

- ナイフ、はさみなどの刃物を使う作業。また、盤茎ばんけいの形状に個体差があるため、安全に刃物を使いこなすための指導が必要。
- 臭いがあるので、風通しのよい場所で作業する。

■ プロジェクトチーム、マッチングセンターでの工夫

- 事前に作業の手順を写真等交えた資料にまとめ、事業所に提供した。

■ プロジェクトチームでの検討結果、今後への所感

- 二年目の作業では、初年度の経験が生かされ、段取りよくスムーズに作業が進められた。
- 企業、障害福祉サービス事業所等とともに、次年度以降も作業受委託をする意向があり、今後も良い関係が継続することに期待したい。

■ 作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円 台	2千円 台	3千円 台	4千円 台	5千円 台	6千円 台	7千円 台	8千円 台	9千円 台	1万円 以上			
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
難易度	易しい	普通	難しい	地域性			西部	中部	東部	障がいの種類			
										身体	知的	精神	その他

ブルーベリーの完熟果実の摘果作業

モデル事業による農業の受委託事例

だいせん
大山山麓でブルーベリーの観光農園を営む農家からの請負作業。このブルーベリー観光農園では、ブルーベリー狩りを楽しめるほかジャムなどの加工品を製造販売している。

今回の委託作業では、農園の加工用のブルーベリーを収穫。

職員が1人同行し、障がい者3人で作業を行った。作業は約1月の間に週に2回程度、計8日間出かけ、午前中に2時間ほど収穫作業を行った。

作業にあたった障がい者は、「この作業は楽しい。来年もしたい。」との感想。

気温が高い時期だったため、職員は作業を見守りながら体調管理に心がけた。



完熟した果実の色を見分けて摘み取る。摘み取ったブルーベリーは、バケツへ入れる。

また、この農園では20種以上の品種のブルーベリーが栽培されており、品種が違う果実が混ざらないよう作業を行った。

■ 主な工程

完熟果実の摘果

色の濃くなった完熟しているブルーベリーの実を選定し摘み取る。軸はとらず、実だけを摘み取るよう気をつける。



■ アンケート抜粋

農業者 「利用者の収穫作業については問題ないが、毎日実は熟すので、出来れば少人数でも毎日作業して欲しかった。」

施設 「今年は特に暑かったので、休憩や水分をこまめにとるよう、気をつかった。また、日よけにパラソルなどを持参すれば良かったと思う。」

■ 作業における配慮、指導方法のポイント

- 収穫対象となる完熟した実の見分け方、取扱についての指導が必要。
- 夏の暑い時期での作業は、時間帯の設定を早朝や午前中にするなどの配慮が必要。
- 水分補給、熱中症対策などに気配りする。

■ プロジェクトチーム、マッチングセンターでの工夫

- 作業期間中、数回現地確認などしながら作業の様子について確認をした。

■ プロジェクトチームでの検討結果、今後への所感

- 引率の支援員が毎回変わったため、その都度説明が必要になり、支援員によって成果にばらつきが出た。支援員は固定したほうが良い。

■ 作業分析

ユニット1日あたり 料金目安	1千円 台	2千円 台	3千円 台	4千円 台	5千円 台	6千円 台	7千円 台	8千円 台	9千円 台	1万円 以上						
作業時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
難易度	易しい	普通	難しい	地域性			西部	中部	東部	障がい の種類			身体	知的	精神	その他

ラッキョウ種球の選別作業

モデル事業による農業の受委託事例

たねきゅう

種球とは、植え付け用の種にするラッキョウのことで、植え付け前に選別と消毒作業が行われる。

種球は、大球で病害虫被害のなく充実したものを選別する。この選別作業が不十分だと、病害の発生や収量が低下するため、作業には確実性が求められる。

この事例は、鳥取市福部町の農家からの受託作業で、7月上旬に5日間かけて実施。

作業受託した障害福祉サービス事業所等の施設にラッキョウを搬入し、施設内で選別作業が行われた。



主な工程

種球の選別

分球し、いくつかの球が房になったものを一つずつ分けていきながら、腐れ等がないか確認していく。



手順書（東部プロジェクトチーム作成）

- 1) 初日は作業前に農家が種球コンテナを作業場に搬入し、サンプルをつくり選別基準の確認を行う。
- 2) 利用者と職員は、作業場10時から午後4時まで選別作業を行う。
- 3) 選別するラッキョウは、コンテナから出しシートや作業台の上に広げ、砂が落ちやすくなるまで乾かす。
- 4) ある程度ラッキョウが乾いたら、手作業で砂を丁寧にふるい落とす。砂が落ちにくい場合はブラシを利用する。
- 5) 種球に腐れがないかを丁寧に点検し、少しでも腐れ等があれば取り除き、別のコンテナに分ける。
- 6) 鉛筆の太さより小さい種球は、予備種球として別のコンテナに分ける。（3～6の作業を全量終わるまで繰り返す。）
- 7) コンテナの作業量は農業者が確認し、記録する
- 8) 選別したコンテナは農業者が指定する場所に午後4時半までに運び農業者は選別されたコンテナを検品する。運搬する時間が前後する場合は当日の昼までに連絡する。
- 9) 事業所は、翌日の作業可能な量のコンテナを持ち帰る。